



# まる○福連携2025

一般社団法人福祉システム北海道

代表理事 高橋 銀司氏

(社会福祉士、介護福祉士)

## 異業種との対話から福祉を探る

### ◇はじめに◇

さまざまな分野で活躍している専門家との対話から得た学びや気づきをお届けする連載「○(まる)福連携」が6年目を迎えました。2020年から始まり、昨年30人目のゲストをお迎えすることができました。心より感謝申し上げます。今年の連載も全8回「異業種×福祉」の対話の中から「そこにある福祉」を探り、学んでいきたいと思ひます。

### エピソード1 映像ディレクター 遠藤 秋穂氏

## 人の心を理解し寄り添う大切さ



**えんどう・あきほ** 札幌学院大で臨床心理学を専攻し、人の心に響く映像を追求する。2015年にフリーランスで本格的に始動。ライブ、ミュージックビデオ、テレビ番組、企業PR、ドキュメンタリー、ウエディングムービーなど、幅広く制作担当し、現在は映像制作セミナーやDX学校で講師も務めている。

#### ●映像ディレクターについて教えてください。

いろいろな映像ジャンルがある中でも、ミュージックビデオ(MV)、ライブ映像など音楽作品を中心に、テレビ番組、ウエディングムービー、企業プロモーションビデオ(PV)なども作っています。業務としては、企画構成台本・絵コンテを作成。撮影現場でモデルやカメラマンに指示を出し、編集作業もします。

#### ●仕事を始めるきっかけは何だったのですか。

もともとは学校の先生になる夢がありました。高校生の時に心理学に興味を持って、大学で臨床心理学科に進みました。大学生の時に家庭教師や塾講師の仕事ができたので、先生の夢は一応叶(かな)ったんです。臨床心理士とスクールカウンセラーの道も考えたのですが、大学3年生でコンサルタント会社のインターンに行き、Macを1台渡されて、映像制作をやってみてと言われました。パソコン関係は苦手意識があつてできないと思つたけど、やってみると「めっちゃ楽しい」と思つたんです。特に映像の編集作業が大好きになつたので、これを仕事にしようと思つたのがきっかけです。

その時の仕事内容としては会社紹介やセミナー講師の方が多くて「こんな授業してますよ」ってセミナー紹介だったり、ドキュメンタリーチックに映像をつくったりするのが多かったです。

#### ●仕事で大切にしていることは何ですか。

一番は人の心に寄り添うことです。自分が感動するような映像に共感することが多かつたので、多くの情報を比較検討して調べたものを自分のオリジナリティを出すための引き出しにするっていうことを心掛けています。いろんなMVをジャンル問わずに見たり、アニメも大好きで、カメラワークやストーリー性など世界観的なところを吸収するのに、たくさんの映像作品を見ています。

つらく悲しい人生を送ってきた人には、そういう共感するような映像で人生観が変わつたりすると思ひます。パラダイムシフトを起こしてあげて、想像以上の映像を見て、「こんなことが世の中にあるんだ」「こんな格好いい映像があるんだ」というので人々を感動させられるようにと意識して普段つくっています。人の心に響く映像制作講座やマザーズハローワークのパソコンセミナーの講師をしたり、知識のアウトプットも大切にしています。

#### ●遠藤さんが心に響いた映像ってどういうものがありましたか。

映像をつくる側になって初めて気づいたんですけど、小さい頃から音楽を聴くのが凄(すご)く好きで、MVやライブ映像を見るのも大好きです。音楽作品で感動したり、コンサルティング会社の「職業と人生」という講義で流していたPVがあつたんですよ。働く人々の姿を映した、いわば「情熱大陸」みたいな。かつこいいなと。

#### ●仕事での失敗談などありますか。

数えきれない失敗をしてきましたが、一番はコミュニケーションの取り方です。映像制作はお客様にとって形の見えない商品を購入することになるので、私は丁寧に説明したいと思ひています。映像制作をしたいと思つたきっかけ、背景、誰にどういふことを伝えたいかなどを深くヒアリングしていきたいんです。クライアントによってはフランクに話してほしいとか、説明が堅苦しかったり真面目過ぎるとか、気まずい空気を感じたりすることもあります。

技術面では8年目になりますが、最初の頃はタイムマネジメントに苦労しました。事前に企画構成台本に撮りたい画角なども描いておきますが、そのカットをすべて撮りきれなかったこともあり、カメラマンに「巻きで！」と指示したり、別日にもう1回撮影しようと思ひ撮影日程を増やしたこともあります。「妥協せずにつくりたい」ということで、そんなことも昔はありました。

#### ●仕事の中で福祉や介護を感じる時はありますか。

医療系のPVや福祉・介護施設の教育研修動画をつくる際は医療・福祉職員の方に関わる機会があります。日常でも、撮影現場とロケハンに行く際に車いす、視覚聴覚障害者の方に出会うこともあり、バリアフリー施設を見つけると「優しい施設だな」とうれしくなります。古い建物だとバリアフリーではなかつたりします。ないと悲しい気持ちになるとか、そういうのはよくあります。

私はストーリー性のあるものをつくりたいんですけど、直接福祉や介護のPVじゃなくても、いろいろな映像の中で視聴者に福祉や介護に興味を持ってもらえたらと思ひます。おじいちゃん、おばあちゃんに道をよく聞かれたりもして、誰にでも優しく手を差し伸べられる人でありたいと思ひています。社会問題に関することでも自分には何ができるか、どんなことを視聴者に伝えることができるかを考えて、求心力を身に付けて、これまでの教育や心理学、映像制作のスキルを生かして社会に還元していきたいと思ひています。

#### ●人に優しくしてもらって印象に残っていることなどありますか。

幼稚園の時にすごく目が悪くて、視力0.1もないので、すごく転んでいたので、先生がすぐ助けてくれていました。それで先生が大好きだったので先生になりたいという気持ちも強くなつたと思ひます。

#### ●遠藤さんの立場から介護・福祉の仕事や業界はどう見えていますか。

映像業界に従事する人にとって、福祉や介護が必要な場合も多くあるので身近な存在です。どの業界にも共通することだと思ひますが、人に優しくする心を持って関わることは大切だと思ひます。困っている方がいたら助ける。自分がされてうれしいことをする。この世界は複雑にできているようで、実は本質的な部分でシンプルにつながっているような気がします。

#### ●映像業界から福祉業界に知ってほしいことはありますか。

福祉業界の方に施設紹介のPVや教育研修で貢献させていただきましたが、ほかにも映像の活用チャンスは数多くあることを知っていただけたらうれしいです。施設内部の利用方法などで生かせる可能性はまだあると思ひます。

#### ●自身が福祉・介護サービスを利用するのなら、どこで、どんなケアを受けたいですか。またはこんなサービスは受けたくないというものはありますか。

一番は利用せずに健康でいられたらと思ひますが、利用するなら自然豊かな場所でのびのびとお散歩に連れて行ってくれたり、穏やかに優しく接してくださる方がいいなと思ひます。

#### ●今の遠藤さんがあるのは、どのようなことを大切にしてきたからだと思いますか。

私は好きなことを突き詰めて仕事をする人生に大きな生きがいを感じてきました。その中で、人の気持ちを理解し寄り添うことを最も大切にしています。私の尊敬する方の言葉で「人は何者にもなれるし、何者にもなれない」という言葉があります。なりたい憧れの姿に向かって努力していますが、まだ何者にもなれていない実感はありません。生涯を終えるまでに納得のいく答えを見つけたいです。

#### ●映像制作などの仕事は「人間として」どういうところが成長するのでしょうか。

専門職として「ものづくり」は黙々と作業するイメージがあると思ひます。ですが、制作を通じて、誰に見てもらおうのか、どんなことを感じるだろうか、何を伝えたいのかなど多くのいろいろな人の心にじっくり向き合う面もあります。他の職業にも当てはまるものかもしれませんが、技術を磨いていく中で心身ともに成長できるお仕事だと感じています。



### ◇あとがき◇

心に寄り添うことを大切にしている遠藤さん。クライアントとの関わり方について、「丁寧に説明したい」という自身の思いと、「フランクに接してほしい」という相手の思いの間に揺れる姿がとても印象的でした。その話から、以前知人に尋ねられたことを思い出しました。「職員が利用者にくだけた話し方をするのはどう思ひますか」。私は普段、利用者に敬語を使っているのだから、あまり深く考えたことはありませんでした。けれど、現場でも意見の分かれるテーマなのだろうと感じました。

職員にとっては敬語が当然でも、利用者にとっては息苦しさを感ずってしまうかもしれません。とはいえ、私は敬語を使うことが必ずしも遠い関係になってしまうとは思ひません。実際、私自身、10年来の知人とは互いに敬語でも馴染(なじ)みの関係を築けています。大切なのは、相手に安心してもらえる話し方や声の調子なのだと思ひます。イントネーションなどを工夫することで、敬語でも距離を縮められる。そうした工夫が、コミュニケーションの幅を広げるのだと改めて感じました。

### ◎インタビュー◎

**たかはし・ぎんじ** 1987年、小清水町出身。Ezo'n music福祉ジャーナリスト。日本医療大学総合福祉学部助教。札幌市市民活動サポートセンター市民活動相談員。